

平成29年度第5回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査） 会議要旨

1. 開催日時 平成29年8月18日（金） 午後13時～4時50分
2. 開催場所 文化ホール2階 大会議室・多目的室
3. 出席者 志村はるみ委員長職務代理、椎名武博委員、大和正明委員、
林典子委員、矢野眞理委員、大野定俊委員、浅賀博委員、
桑田佳雄委員、坂本富彦委員 以上9名
4. 発表者 提案者17名
5. 事務局 市民活動推進課 高橋参事、伊藤、杉山、平木
6. 傍聴者 17名（定員20名）
※議題1については、印西市情報公開条例第7条第5号により非公開。

7. 会議内容

- (1) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）／スケジュール及び
評価の確認について
- (2) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）
 - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
 - ②プレゼンテーション
 - 提案5 自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及事業（印西防災研究会）
 - 提案6 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
(里地里山保全ねっと)
 - 提案7 小中学生に全国屈指の吹奏楽を提供する
(NPO法人アンサンブルはなみずき)
 - 提案8 武西の里山 保全と調査事業
(NPO法人谷田武西と原っぱの会)
 - 提案9 高齢者の為のエンディングノートの作成と配布
(エンディングサポート風)
 - 提案10 みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターン
(印西ふるさと案内人協会)

③審査結果発表・講評

8. 審査記録

- (2) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）

①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

事務局説明

- ・プログラムに基づき、本日の審査会の進行について説明した。また、提案1から提案4の継続提案については、平成29年度企画提案型協働事業実施要領に基づきアイデア審査は行わず、書類審査のみで最終審査へ進出したことを報告した。

②プレゼンテーション

提案5 自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及事業（印西防災研究会）

提案者の発表

- ・模造紙やパワーポイントは使用せず、持ち時間内に企画提案のプレゼンテーションを行った。

質疑応答

- （質問）実施する研修会の具体的なアイデアについて伺いたい。
- （回答）ひとつは市が主催して実施している自主防災組織対象の研修会への協力を検討している。公民館講座に組み込む案もある。町内会等のニーズを探りながら、安易には考えず慎重に検討したい。
- （質問）自主防災組織の未設置地域の解消に向け、なにか考えがあれば教えてほしい。
- （回答）市の計画では自主防災組織の設置率目標として、今後3年間で10%増と定めている。未設置地区は旧地区に多い。防災課と協力して、実態を踏まえながら目標達成に向けた支援ができればと考えている。
- （質問）自主防災会連合会立ち上げについて具体的な考えがあれば伺いたい。
- （回答）まずは小規模でも可能な地域で立ち上げ、少しずつ拡大していきたいと考えている。団体で作成したマニュアルを活用し、どの地区でも共通する避難所運営を切り口に、市と協力しながら、連絡体制を築いていきたい。
- （質問）自主防災組織の立ち上げ・運営には住民の理解が欠かせない。また、市内でも地域によって被災する災害の種類も異なる。そうした点から、地域ごとにきめ細やかにケーススタディを提供してもらうことが必要だと思われる。
- （回答）地域ごとに必要な支援方法をきめ細かく調査研究していきたい。

提案6 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業（里地里山保全ねっと）

提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、持ち時間内に企画提案のプレゼンテーションを行った。

質疑応答

- （質問）去年は会員4名となっていた。現在の実施体制や、人員の確保について伺いたい。また、現在行っている角田地区での活動は順調に進んでいるか。
- （回答）会員は11名と昨年より増加しており、週1回程度のペースで順調に活動している。近い将来のNPO法人化も検討しており、団体の基盤は整備されつ

つある。

(質問) 私有地は地権者による管理が原則であり、そこに公金を投入することについては懸念がある。市民から、一部の地権者が利益を得ていると捉えられてしまう可能性や、境界の問題もある。そのあたりをどのように考えているか教えてほしい。

(回答) 対象区域は、美瀬地区に隣接する未耕作の谷津田の地権者2名とUR所有地の合計約1ヘクタールを想定している。地権者とはまだ連絡がついていないが、事業実施の目途がついた時点で、本格的に調整をはじめたい。一部の地権者の利益になるという指摘については、イノシシが出没して近隣住民に迷惑をかけている以上、私有地だからといってそのままにしてよいとは思われない。市単独事業としては難しいが、近隣の地域住民と行政が協力して取り組むことで、協働のモデル事業として実施可能になるものと考えている。

(質問) ある地域でイノシシを駆逐しても別の地域に移るだけという心配もある。その中で、美瀬地区を管理の対象区域に選んだ理由と想定される効果について教えてほしい。

(回答) いきなり印西市全域で取り組むことはできない。まずは自分たちが住んでいる地域からはじめ、ひとつの新しいモデルを構築し、それが他地域に波及していくというイメージをもって進めていきたいと考えている。

提案7 小中学生に全国屈指の吹奏楽を提供する（NPO法人アンサンブルはなみずき）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、持ち時間内に企画提案のプレゼンテーションを行った。

質疑応答

(質問) 多忙な学校の先生のさらなる負担にはつながらないか。また、学校側のニーズに合わせる事が本当にできるのか伺いたい。

(回答) 教育委員会とよく調整するとともに、学校とも積極的にコミュニケーションし、相手方のニーズに合わせられるよう努力したい。

(質問) 日本を代表する吹奏楽部を目指すという事業の趣旨に照らして、事業を実施後のモチベーションのあがった生徒たちへのフォローアップについて、具体的な案があったら伺いたい。

(回答) 習志野高校の吹奏楽部と合同練習する時間を設ける予定である。個々のレベルアップについては、学校に戻ってから自主的に考えてもらいたいと考えている。

(質問) 過去2回実施された事業を通じて、団体と関係者が思いをどの程度共有でき

たのか、その様子を教えてほしい。

(回答) 事業実施後に参加者アンケートを実施したところ、大変よい感想が得られた。

今後は学校側とのニーズをすり合わせていくことが重要だと考えている。

(質問) 今回の提案では総額250万円と相当の積算額を見込んでいる。その根拠を教えてください。

(回答) もっとも大きいのは200名を超える市立柏高校の部員のバス代に係る経費である。他にはプログラム印刷費等を見込んでいる。

(質問) 市と協働するメリットについてはどのように考えているか。

(回答) この企画はレベルの高い吹奏楽部とコネクションを持つ自分たちにしかできない提案だと考えている。一方で市の協力も必要である。過去2回の事業では教育委員会からよかったとの感想をいただいている。

提案8 武西の里山 保全と調査事業（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

事務局説明

- ・矢野委員がNPO法人谷田武西の原っぱと森の会の関係者であることから、規程に基づき提案8の審査には加わらない旨を説明した。（矢野委員退席）

提案者の発表

- ・パワーポイントを使い、持ち時間内に企画提案のプレゼンテーションを行った。

質疑応答

(質問) まず、活動に参加する人員の確保はどのように考えているか。あわせて、里山保全の目標を達成するための長期的な展望を伺いたい。ゴミの散乱防止という点では、撤去してもまたすぐ捨てられてしまい、イタチごっこになってしまうのではないかと懸念があるが、その点についてはいかがか。

(回答) 正会員57名、賛助会員あわせて70名程度の団体である。環境整備活動は月2回程度実施しており、毎回10～15名程度が入れ替わり活動に参加している。市で保全計画を策定すると聞いているので、今の段階で団体が独自に戦略を立てることは難しい。市と協力関係を築きながら、活動の方向性を見極めていきたいと考えている。ゴミの撤去については、ゴミはある場所に捨てられ、ないところには捨てられないものであり、現在では大きなゴミはほぼ一掃されている。団体では活動中の監視を意識的に行っており、市も今後力を入れていくのではないかとと思われるので、協力して進めていきたい。

(質問) モニタリングにはあまり費用がかからないと考えてよいか。

(回答)今のところ、モニタリングに係る経費は10～20万円程度で足りると見積もっている。

(質問) 草刈り機やチェーンソーの使用には危険が伴う。保険料についても検討して

いただきたい。

(回答) 団体として活動中の保険には加入しているが、市と協議して委託費の中に入れられるか検討したい。

提案 9 高齢者支援の為にエンディングノートの作成と配布（エンディングサポート風）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、持ち時間内に企画提案のプレゼンテーションを行った。

質疑応答

(質問) 高齢者に無償配布となっているが、そうすると必要性を感じない市民に対しても配布することになり、結果として無駄になるのではないかと懸念している。また、一人暮らしの方がエンディングノートを書いた場合は市に預けることになるのか。

(回答) 一人暮らしの方が市に預けることまでは想定していない。配布については希望者を対象で考えている。具体的な方法については市と相談して決めたい。

(質問) 配布対象は希望者とのことだが、希望者数の見込みについて伺いたい。

(回答) 高齢者対象と考えているが、対象年齢は市と相談して決めたい。エンディングノートの配布はインターネットによるダウンロードも検討している。

(質問) 他の自治体の状況を調査していれば教えてほしい。

(回答) 手法や対象は様々だが、エンディングノートの配布を事業として行っている自治体は多くある。調査内容は配布資料のとおりである。

(質問) エンディングノート配布の効果測定について、なにか考えがあれば伺いたい。

(回答) 効果の測定は難しいが、配布後ある程度期間をおいてから啓発講座等を開催することで、長期的に効果が出てくるのではないかと考えている。

提案 10 みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターン（印西ふるさと案内人協会）

提案者の発表

・模造紙を貼りだし、持ち時間内に企画提案のプレゼンテーションを行った。

質疑応答

(質問) 木下街道膝栗毛は年1回のイベントなのか、要望に応じて案内するような企画なのか教えてほしい。また、以前の事業が終了した理由も踏まえて、新しいアイデアがあれば伺いたい。

(回答) 年1回のイベントである。多くの方に参加していただき、アイデアを取り込みながら企画を練りあげていきたいと考えている。市とも少し話しをしている。

(質問) プロジェクトチームを結成するアイデアは興味深いですが、最終審査に向けてはプロジェクトチームの名義で提案をするのか、それとも事業採択後にプロジェクトチームを結成するつもりなのか、考えを伺いたい。

(回答) 事業採択後イメージしている。印西市を盛り上げられるよう貢献できればと思う。

(質問) 事業効果を高めるためには新しいアイデアが必要だと思われる。対象者を広げていけるような新しい仕組みや仕掛けはなにか検討されているか。

(回答) すべてこれからである。

(質問) 1回目の木下街道膝栗毛に参加し、楽しかった思い出がある。ただ、過去のイベントの焼き直しでは物足りなさを感じる。もうひと工夫考えてほしい。

(回答) 近年ではウォーキングイベントでも若い方や市外の方の参加が増えてきている。そうした新しい層にもアピールできる企画を考えていきたい。

③ 審査結果発表・講評

志村委員長職務代理の進行のもと、各委員の評価を集計した審査結果を次のとおり発表した。

【審査結果】

| 提案 | 提案名 (提案者) | ○ | △ | 結果 |
|----|--|---|---|----|
| 5 | 自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及事業 (印西防災研究会) | 8 | 1 | 可 |
| 6 | イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業 (里地里山保全ねっと) | 7 | 2 | 可 |
| 7 | 小中学生に全国屈指の吹奏楽を提供する (NPO法人アンサンブルはなみずき) | 0 | 9 | 否 |
| 8 | 武西の里山 保全と調査事業 (NPO法人谷田武西と原っぱの会) | 7 | 1 | 可 |
| 9 | 高齢者支援の為にエンディングノートの作成と配布 (エンディングサポート風) | 3 | 6 | 否 |
| 10 | みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターン (印西ふるさと案内人協会) | 6 | 3 | 可 |

審査結果発表後、提案ごとの講評として、志村委員長職務代理と大野委員が模造紙に貼りだした各委員の意見を集約して紹介した(下記参照:提案5~提案10)。

最後に、志村委員長職務代理が以下のとおり全体の講評を行った。

審査の可否が分かれた理由は、団体の活動が良いか悪いかではなく、個々の企画提案が公金を投入する市の協働事業としてふさわしいかという観点のみから評価された結果である。現在取り組まれている活動については、今後もぜひ活発に続けていただきたい。今後、再び企画提案型協働事業に提案を検討される場合は、外部の人からどのように見られるかという意識を強く持ち、企画を練っていただくようお願いしたい。また、今回審査を通過した団体には、団体の主体性を発揮して具体的な計画を作り、市との協議に臨んでいただきたいと思う。最終審査のプレゼンテーションにも期待したい。

提案5 自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及事業（印西防災研究会）

【各委員の意見】

実施の価値あり

- ・自主防災組織の普及等は印西市にとって必要な事業で協働で行う価値があると考えられる。
- ・自主防災について 共通のスキルと連絡システムを充実させるのは必要なことだと共感しました。
- ・大変意義のある取り組みで是非継続的に実施していただきたい。特に、自主防災組織連合会の立ち上げは重要と思われるので努力して頂きたい。（期待）
- ・印西市の状況、課題について把握されている。

行政・自治会との連携が不可欠

- ・市の防災課との協業がうまくかみ合うようであれば大変良い提案かと思う。
- ・自助・共助の実践力を育成する取組みとしてより高い効果を発揮できるよう団体と行政の連携を深めて下さい
- ・地域・自治会それぞれで抱える課題は多様だと思います。課題の把握、解決策の立案と行動が自律的に行える人材が育成できるよう、育成手法について行政・自治会とも意見交換をしながら、より良いものに仕上げてください。
- ・各組織の防災意識と実践力を向上させる。手法・取り組みは、大変手間がかかると思いますが、画一的にならず、各組織の実態に合わせた手法を行政・自治会担当者とコミュニケーションを取りながら柔軟に取り組んでください。
- ・市との連携方法 マニュアル：「印西市のマニュアル」はないか。市のマニュアルとの関係は。

実施手法の工夫を

- ・自主防災組織の未設置地域の解消については新しいアイデアを持って市と協力して実現して頂きたい。（要望）
- ・住民が自発的に活動に参加できるよう工夫して下さい。

- ・実態調査（大事です）～研修企画～実施～設置促進 を進めていって下さい。
- ・研修会など自治会以外にも、公民館プログラムの様に、広く活動した方が広まるのではないのでしょうか。
- ・自主防の課題は住民の理解、運営するマンパワー、資金調達等様々。更に水害の多い地区、ガケ地、台地上のマンション等予想される災害も多様。普及の実を上げるにはケーススタディが有効と思われる。その前提で賛成。
- ・マニュアルの見本が見たいです。
- ・市に頼り過ぎのような気がする。
- ・自主防災組織の増加の為の具体的な取組が希薄。

提案6 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業（里地里山保全ねっと）

【各委員の意見】

事業の意義は理解

- ・地域住民のニーズも高いと思われる。
- ・事業内容に具体性が見られる。
- ・里山保全、「大変な作業」かと思うが、実現可能であれば是非進めてほしい。
- ・放棄地と市民の活動をつなぐための実現例として、よい事業になればよいと思います。
- ・提案内容から実現可能性があると感じられます。
- ・長期的な取り組みになると思いますが、ぜひ多くの人の参画を得ながら実現してほしいと思います。
- ・（要望）美瀬地区のみならず、他地域でも適用可能となるようなモデルケースとして実施して頂きたい。（地権者との調整や行政との役割調整を含む）

地権者や地域との関係に課題

- ・私有地の整理は、地主に負わせるのが一般的。公共事業としては賛成できない。
- ・地権者との調整が先と考える。それが出来てからでないと、審査検討できないと思う。
- ・地権者との調整が今後の大きな課題である。
- ・私有地を保全しようとするとき、その私有地のある地区に働きかけ、地区で情報共有することからはじめることが必要と感じました。
- ・次の審査ステップに向けて、公有地と民有地にまたがる課題に対応するためのルールづくりについて、団体・行政の知恵を絞って、良いアイデアを積極的に生み出していただきたいと考えています。
- ・保全作業にボランティアが集まる方法と事例に注目していきたいと思います。

イノシシの生態調査の必要性

- ・整備対象地の選定ルールを行政と協力しながらある程度明確にしていく必要が出てくると思います。イノシシの生態の特徴を踏まえた選定ルールを構築すると今後の活動がし

やすくなるのではないのでしょうか？

- ・地域別のイノシシの生息個体数の把握ができていると、対策地の優先順位の決定等、様々なレベルにおける判断に資すると思います。
- ・(要望) イノシシが他地域に移ったり住宅地域に出没するようにならないように配慮して頂きたい。
- ・イノシシの捕獲についても、市と協働して推進して欲しい。
- ・イノシシの生息環境教育ができるといいですね。

提案7 中学生に全国屈指の吹奏楽を提供する（NPO法人アンサンブルはなみずき）

【各委員の意見】

手法に疑問

- ・アイデアは独創的だが吹奏楽に特化するの市の協働事業としては疑問である。
- ・印西市の吹奏楽レベルアップを図る活動として有効性は認められるが、行政との協働事業としては、日々の吹奏楽教育の充実など地道な基盤（ソフト面の充実等）充実が第一と考えられる。
- ・(要望) 合同練習を主体とした企画とした方が、協働事業としてはふさわしいのでは？
- ・この事業により、提案効果が得られるかが疑問。
- ・目標達成のための手段としては、合理性が乏しいと思います。
- ・「日本を代表するような…」誕生の意味が、中学生をまきこんで（3年間）継続していきけるか疑問です。

学校との関係に不安

- ・目指す目標を学校・行政関係者と共有することが重要となると思います。関係者とのベクトル合わせのための対話を重ねて下さい。
- ・学校事業への参加という面において、どのように参加していくのか具体策が見えない。
- ・各学校の事情・状況があるので、ある程度自主性を重んじるべきであると考えられるので、協働事業としては疑問である。
- ・現在の小学生は高学年は中学受験で多忙。中学も高校受験のポイントになるため、クラブ活動で多忙。これ以上の子供への負担は無理と思料される。
- ・吹奏楽部に対する一方的な思い入れのような気がするが。
- ・当団体の思い先行でないか？

自主事業がふさわしい

- ・独自事業でやるべきでは？
- ・まちづくりファンドの活用が適切と思われます。

提案8 武西の里山 保全と調査事業（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

【各委員の意見】

事業目的・内容が明確

- ・事業内容、目的が明確だと思います。
- ・必要な事業で市との協働作業としてふさわしいと思う。
- ・市と住民双方にとって有益と思料される。作業リスクへの対応は今後の課題。
- ・貴団体の持つ専門性が活かすことができる事業だと思います。

さらに発展できる長期的な仕組みづくりを

- ・市の所有地ということで、3年継続後のことを検討していく必要があると思う。
- ・(要望) 市との協働事業として、他の地区の里山保全にも活用、拡大できるようなモデル事業として実施して頂きたい。
- ・(要望) モニタリング調査等の結果やノウハウを里山保全、環境保護資料として、公開して頂きたい。
- ・すばらしい活動だと思います。役務提供をボランティア（無償）の善意によっているようであるが、一定のペイを払えるような仕組みにして、益々発展されることを期待したい。
（①活動員の強化、②質の高いサービス提供）
- ・単なる草刈りではなく、生物多様性の維持を念頭に置いた、土地の管理という視点は独特だと思います。団体と行政の協働による、相乗効果を期待します。
- ・現在は武西地区など一般には入れない様ですので、もっとボランティアなど募る為には、気軽に参加出来るイベントが多く開かれる事が望ましいのでは。
- ・長期的なビジョンが市に頼りすぎであり、自らの主体性が希薄です。

提案9 高齢者の為のエンディングノートの作成と配布（エンディングサポート風）

【各委員の意見】

自主事業がふさわしい

- ・(意見) エンディングノートの作成の啓蒙活動は大変重要と考えられるが、市民サービスとして協働事業方式で実施するのがふさわしいか否か疑問が残る。(必要とされる高齢者サービスは別にあると思われる。)
- ・対象者が限られている中で、協働である意味がないと考える。
- ・終活は究極の個人的事業。本来他人が介入するべきでないと思料される。リーガルサポートならば、考えられるが、これ以外は協働事業には馴染まないと思われる。
- ・市のメリットが希薄である。

事業計画の再検討とニーズの明確化

- ・高齢社会が抱える課題を的確に捉えていると思います。協働事業として発展させるためには、印西市の事業の中にこの提案内容をどのように位置づけるかの検討が必要だ

と思います。次のステップでは、この点につき、印西市の担当部局と共に検討することを必ず実施して下さい。

- ・（意見）高齢者を対象とした各種の啓蒙活動（講演会・学習会）を主体とした事業の方が良いと思われる。
- ・市民のニーズが高いかと言うよりは、問題を喚起する啓発事業の一つとして、取り組む意義は高いと思う。
- ・市の、当該部門の優先課題と協議して、前向きに検討されて…。
- ・民生委員や生活支援コーディネーターとの連携は必須と思われる。エンディングノートが真ん中ではなく対象者（高齢者）が真ん中で、何が必要か考えてみてはいかがでしょうか。
- ・高齢者支援は市としても必要な事業と考えられるが、本事業はエンディングノートの作成、配布に止まっているので、必ずしも市との協働事業としてふさわしいと思えない。
- ・エンディングノートの優位性、価値をどのように考えていますか。
- ・エンディングノートが市民にどのようなメリットがあるのか、ゴールのイメージを持っていただくと必要性が伝わると思います。
- ・対象を成人式をこえる（こえた）人々とすることもあるかと思えます。

提案10 みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターン（印西ふるさと案内人協会） 【各委員の意見】

アイデアの斬新さに課題

- ・印西市の文化を継承していくことは素晴らしいと思う。博物館や美術館がないのであれば何か残す、残るアイデアがほしい。
- ・（意見）昔の「木下街道膝栗毛」リターンという視点からのみならず、市民が印西市の文化財や歴史を再発見できる新しいイベントとして、過去の反省もふまえ再検討して頂きたい。
- ・前回の総括を含め、独自性をどう確保するかが課題。同じものの繰り返しでは新味がない。
- ・30年度単年度では心もとないです。
- ・単年度限りの事業とのことなので、アイデア等実現に向けて十分に検討していただきたい。
- ・1年に1回のイベントを協働事業とするのは、もったいないと思う。工夫の余地はあると思う。もう少しアイデアを。
- ・構想をもう少し具体化して、再提案いただいた方が良いのではないかと思う。
- ・町おこしに効果があるのでは。

- ・プロジェクトチームの作りかたと進行に注目したいと思います。
- ・次のステップに進む際には、予算規模が大きくなることで、従前の事業内容とどのように変わるのか（事業内容が充実するのか）をしっかりと行政担当部局と共に検討して下さい。

以上